

# 流域治水プロジェクトの取組概要の報告

---

# 水田の貯留機能を活用した田んぼダムの普及・啓発

- R1年度に新潟大学と連携して田んぼダムの実証試験を実施し、田んぼダム用の堰板を設置することにより、平成30年西日本豪雨と同程度の雨が降った場合、水田からのピーク時の排水量を5～6割程度抑制する効果があった。
- R2年度より、田んぼダムの普及・啓発を行い、R4年度には約29haの農地で田んぼダムの取組みが行われる予定。

## 取組状況



堰板等設置状況(ほ場)



ノボリ旗(市が提供)



田んぼダム無し



田んぼダム有り

## 取組みに対する支援・普及啓発

< 耕作者の堰板・のぼり旗管理業務 > 1,000円/排水柵  
業務内容 ・農地や農作物への影響確認及び報告  
・のぼり旗設置による取組のPR  
・堰板の常時設置

< 市独自の支援 >

- ・排水柵取替や畦畔補強を市で支援
- ・田んぼダム用堰板を無償で提供

< 普及啓発 >

- ・のぼり旗設置
- ・地元住民を対象とした説明会の実施



新潟大学の吉川教授を招き説明会



支援・普及の結果、

R4年度には、取組農地は約29haになる予定。

貯水効果

14,500t(25mプール 約24個分)

※現在より5cm高く貯水すると仮定

# 倉敷防災ポータルによる情報発信

- 防災に関する情報を集約した専用のポータルサイトを作成。
- リアルタイムで気象・観測情報や避難発令、避難所開設、被害に関する情報を提供することで、状況に応じた適切な避難行動をとれるようにすることが目的。

● ポータルサイトは、令和2年8月から運用を開始

ポータルサイトURL

<https://bousai-portal.city.kurashiki.okayama.jp/>

## 防災関連情報

**災害対策本部**

避難発令  
避難所開設

**被害情報**

**気象庁  
Japan Meteorological Agency**

警報・注意報

**観測情報**

・雨量  
・河川水位  
・河川カメラ

**ハザードマップ**

土砂災害  
浸水想定

スマートフォンや外国語に対応

避難発令や避難所開設などの緊急情報を表示

被害に関する情報をリアルタイムに提供

気象庁からの警報・注意報に関する情報を表示

災害や防災に関する様々な情報を地図上で確認

観測数値でアイコンが変化し、詳細な数値も確認可能

# 内水排水機場の整備

- 内水排水機場の整備(新設2箇所)をすることにより、内水被害リスクを軽減。

①

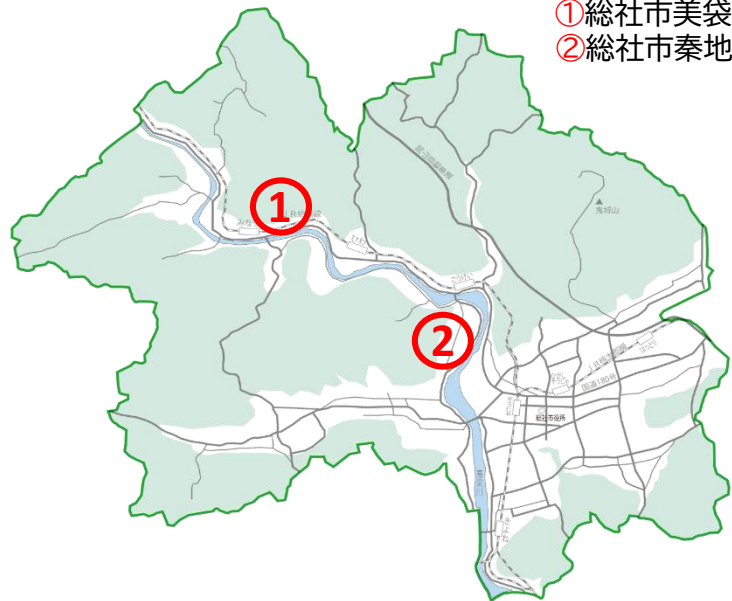
所在地 総社市美袋2184番地1  
敷地面積 499.8㎡  
流域面積 約142ha  
排水量  $1.5\text{m}^3/\text{秒} \times 2\text{台} = 3.0\text{m}^3/\text{秒}$   
ポンプ規模  $\text{Ø}800\text{mm} \times 2\text{台}$

②

所在地 総社市秦1947番地  
敷地面積 1,512㎡  
流域面積 約324ha  
排水量  $0.7\text{m}^3/\text{秒} \times 2\text{台} = 1.4\text{m}^3/\text{秒}$   
ポンプ規模  $\text{Ø}600\text{mm} \times 2\text{台}$

総社市新設内水排水機場配備マップ

- ① 総社市美袋地区排水機場(R3.6完成)
- ② 総社市秦地区排水機場(R3.6完成)

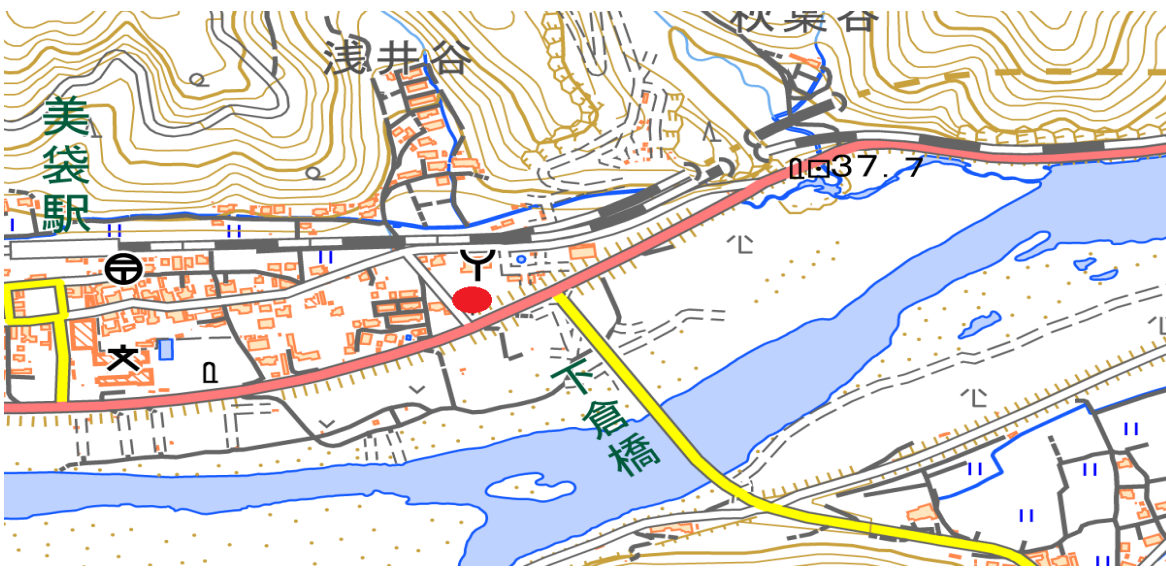


# 避難活動や水防活動を支援するための水防資機材等の配備

## ● 北部備蓄拠点防災倉庫の整備

令和3年8月23日整備

- 食料、飲料水、生活用品、感染症対策、水防資材、電気関係、救助資材を備蓄。
- 地元復興委員や自主防災組織、消防団、地域づくり協議会等に対する説明会も実施。



設置場所: 総社市消防署昭和出張所地内

# AIによる避難発令判断の支援システム実証実験への参画

- SIP国家レジリエンスの市町村災害対応統合システム(IDR4M)の実用化に向けた実証実験に参画。
- 内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)国家レジリエンス(防災・減災)の強化において研究が進められており、九州大学三谷教授の研究グループにより開発されたIDR4Mの実証実験に令和2年度から参画。
- 観測情報、気象情報、雨量予測、地域の災害リスクなどを基に、自治体の避難発令の判断に必要な情報を、最先端のAI・IoT技術を活用し、タイムリーに提供する。
- システムは令和5年度から令和10年度までに、全国1,700の自治体での社会実装を目指す。

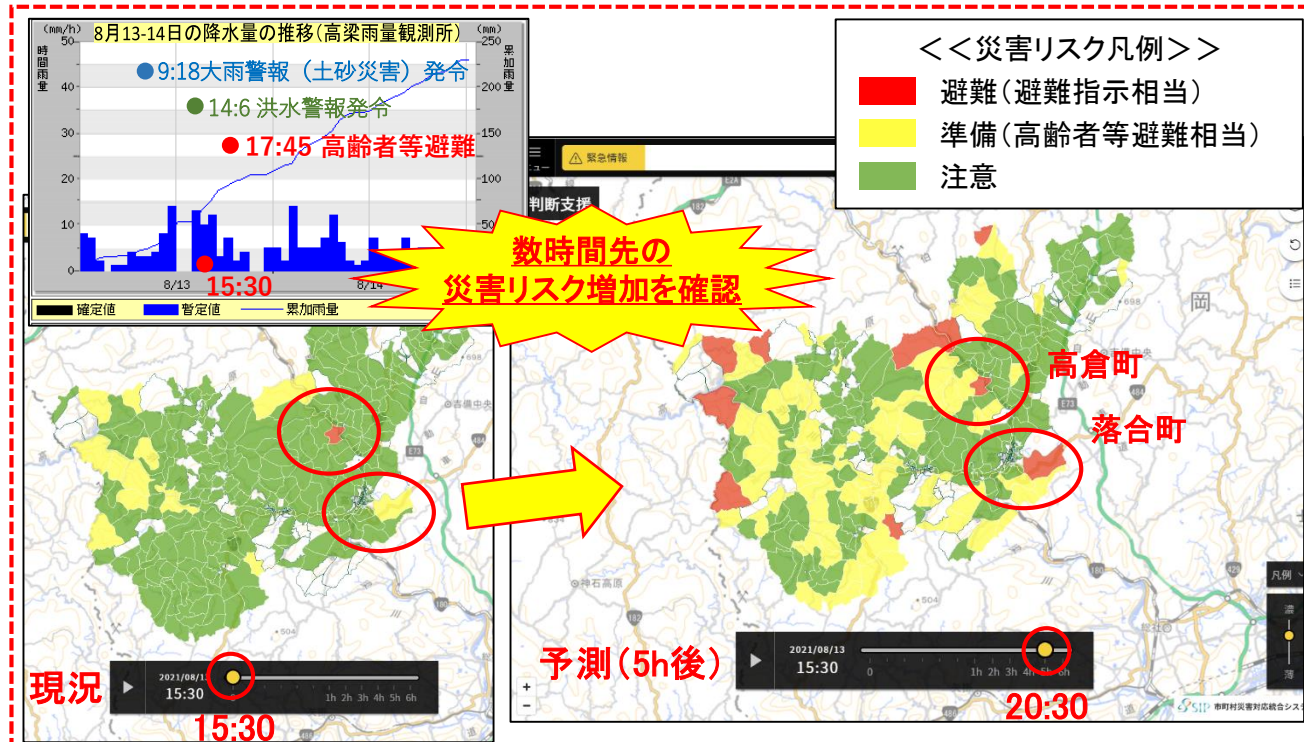
## 【実施状況】

令和2年5月;モデル自治体に選定  
令和3年8月;Web訓練実施

※実際の大雨時にも活用し、令和3年8月13日のIDR4M予測により数時間先の災害リスクの増加を確認。(右図)

## 【次年度以降】

実証実験は令和4年度まで継続して実証実験に参画。



8月13日15:30現況とIDR4M予測 5時間先(20:30)の災害リスク

# 新見市防災マップの更新

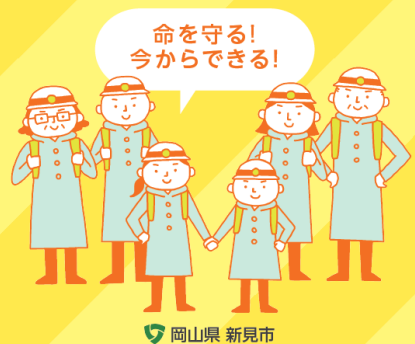
- 高梁川の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域の見直しを受けて、防災マップを更新。
- 市民の防災意識の向上と迅速な避難行動の促進を図る。

<取組期間:令和3年11月～令和4年3月>

## ① 新見北部 エリア版

# 新見 防災

防災マップ (ハザードマップ) & 防災情報



情報面は、オリジナルイラストを使用し、直観的に理解できる内容となるよう工夫。

### ② 各災害の特徴と対応法

- 大雨・洪水**
  - 避難場所を確認
  - 土砂災害
  - 地震
  - 火事

### ③ 避難情報・警戒レベル

- 1 緊急 非常事態 避難の必要がある
- 2 大雨・洪水 注意 避難の必要がある
- 3 高齢者等 避難 高齢者等は避難
- 4 避難指示 全員 避難
- 5 緊急 安全確保 命を守るための最善の行動を!!

### ④ 防災情報の入手

テレビ・パソコン・スマホを活用し情報収集

避難時のポイント

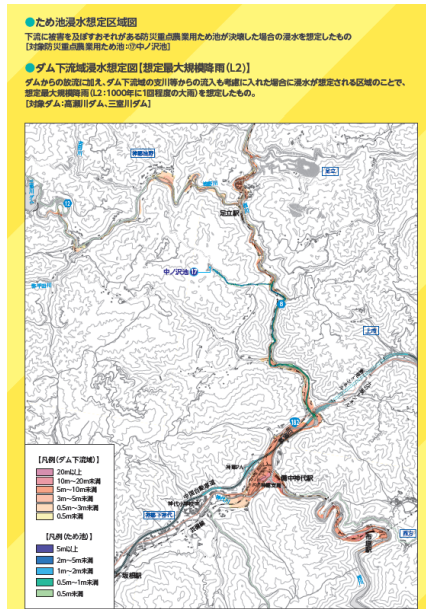
危険を感じたら迷わず避難

### ⑤ 避難所のマナーと配慮

避難所運営は地域の自分たち

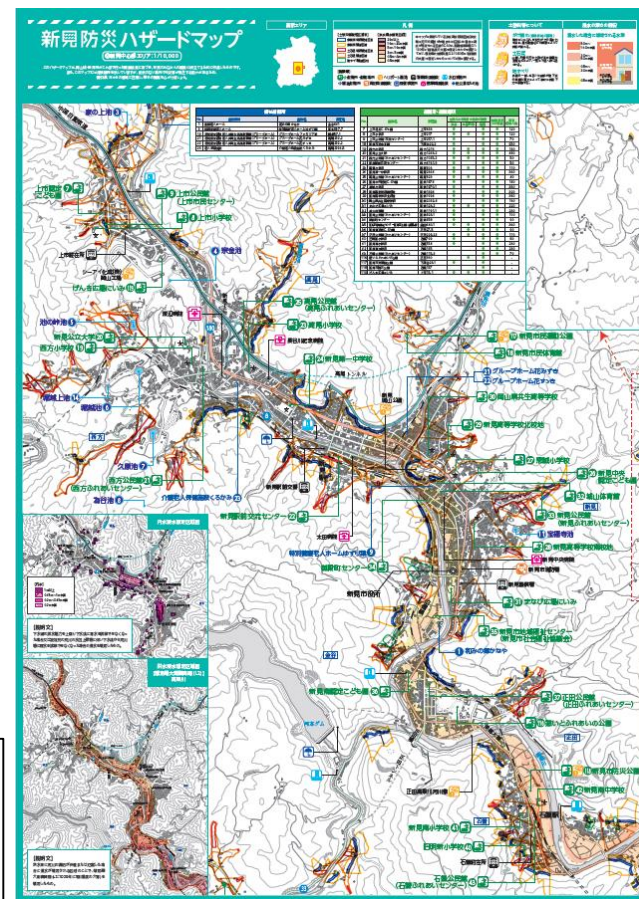
備えておきたい非常持ち出し品

非常持ち出し品



### 新たに掲載した区域図

- ・洪水浸水想定区域図(L2)
- ・内水浸水想定区域図
- ・防災重点農業用ため池浸水想定区域図
- ・ダム下流域浸水想定図(L2)



地図面は、市内を13地域に分割。地域ごとにA1サイズの地図にし、水防法の改正に伴う、新たな中小河川の洪水浸水想定区域の指定にも柔軟に対応できるよう工夫。6